

保険薬局におけるACT、ICS使用状況について

(有)大阪ファルマ・プランなぎさ薬局1)、もえぎ薬局2)、すずらん薬局3)、すみれ薬局4)、あおば薬局5)、そよかぜ薬局6)、あおぞら薬局7)、三重中央医療センター薬剤科8)、名古屋セントラル病院薬剤科9)、呼吸器科10)、みなと生協診療所11)

○森 吉男1)、徳田 妙香2)、小野 尚美3)、金 井子4)、稲垣 真弓5)、林 恭子6)、橋本 一代7)、奥村 禮子7)、島田 泉8)、坂野 昌志9)、新美 岳10)、倉澤 高志11)

【はじめに】

吸入ステロイド薬（ICS）は成人気管支喘息患者治療における第一選択薬として位置付けられ、薬剤師は薬剤の適正使用、治療継続の両面からフォローしていくことが重要な役割りとなっている。今回、（有）大阪ファルマ・プラン（以下ファルマ・プラン）の7店舗においてAsthmaControlTest（喘息コントロールテスト：ACT）、ICSの手技とコンプライアンスについて調査をおこない、喘息のコントロール、ICSの手技とコンプライアンスの状況、関連性について報告する。

【方法】

＜対象患者とその数＞

ファルマ・プランの7店舗において、ICSを受け取り、継続使用している患者130名

＜調査期間＞

2007年11月～2008年3月

＜調査項目＞

ACT、ICSの手技とコンプライアンスについて調査

＜調査・評価方法＞

ACT、ICSのコンプライアンスは聞き取り、ICSの手技は実際にして頂き1項目1点、手技到達率とし評価した。コンプライアンスについてはMoriskyScaleを用い評価した。

【検討事項】

1回目調査における

①各因子でのACT、ICS手技到達率の有意確率について

—全体、薬局間での比較—

② ACT、ICS手技到達率、吸入コンプライアンスでの相関性について

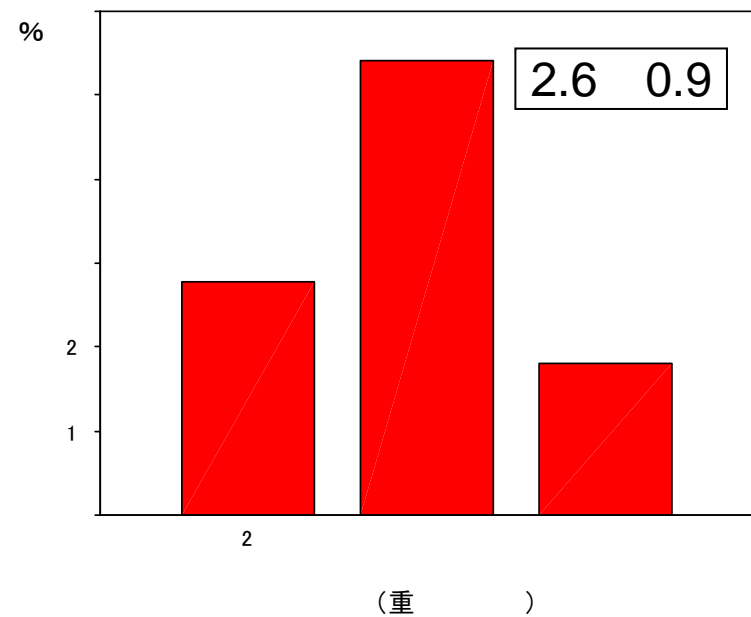
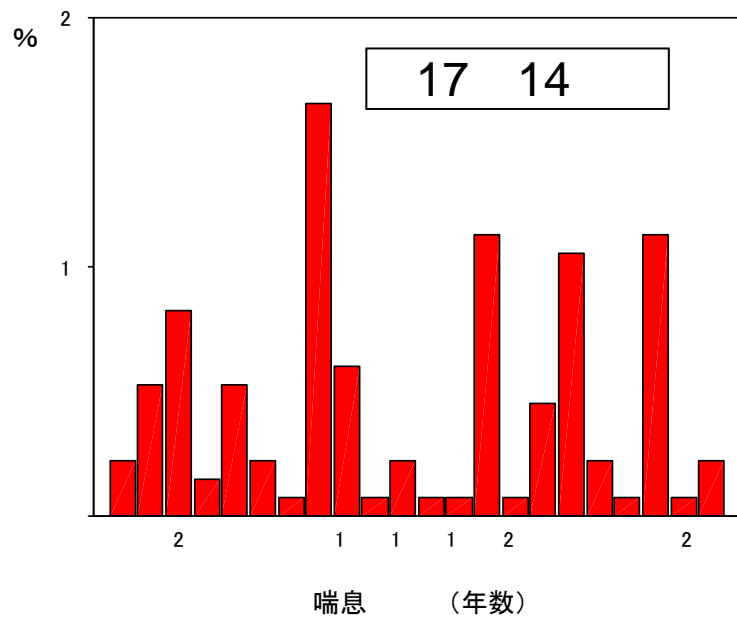
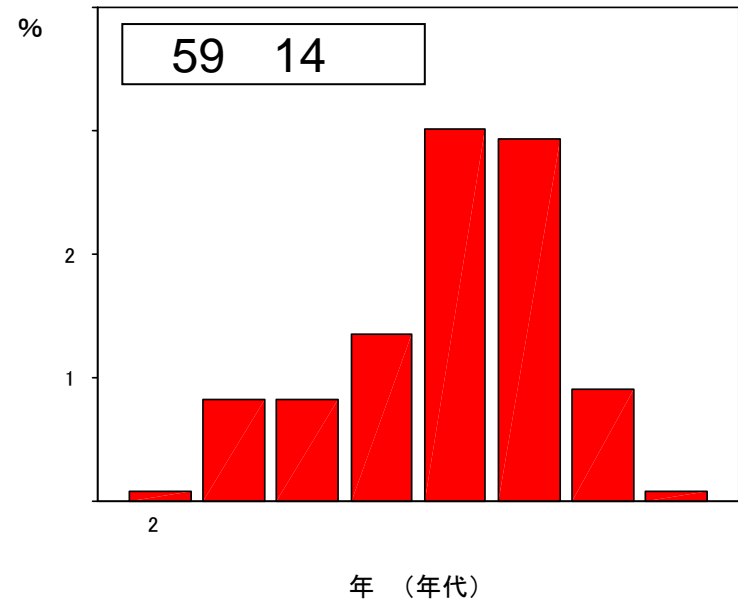
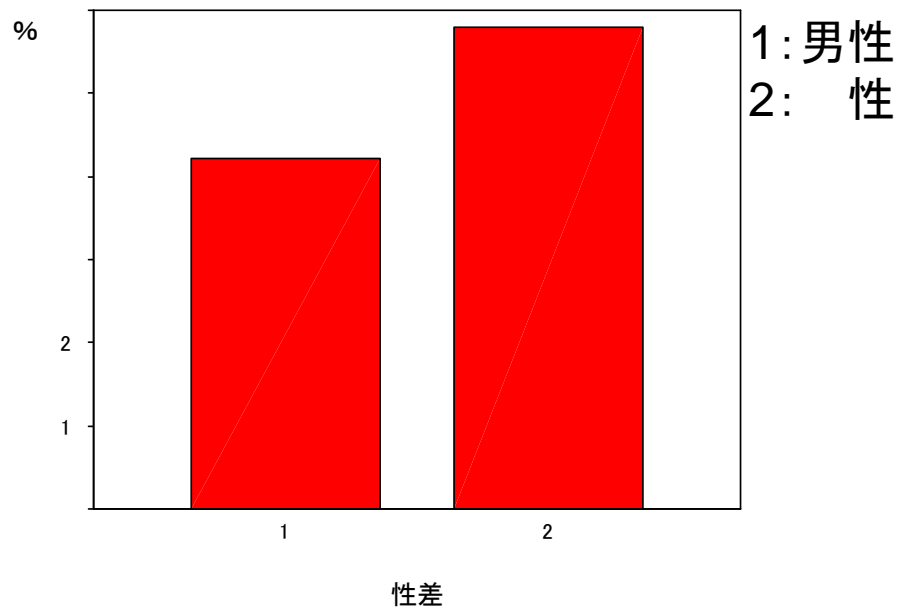
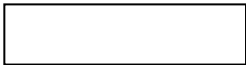
2回目調査における

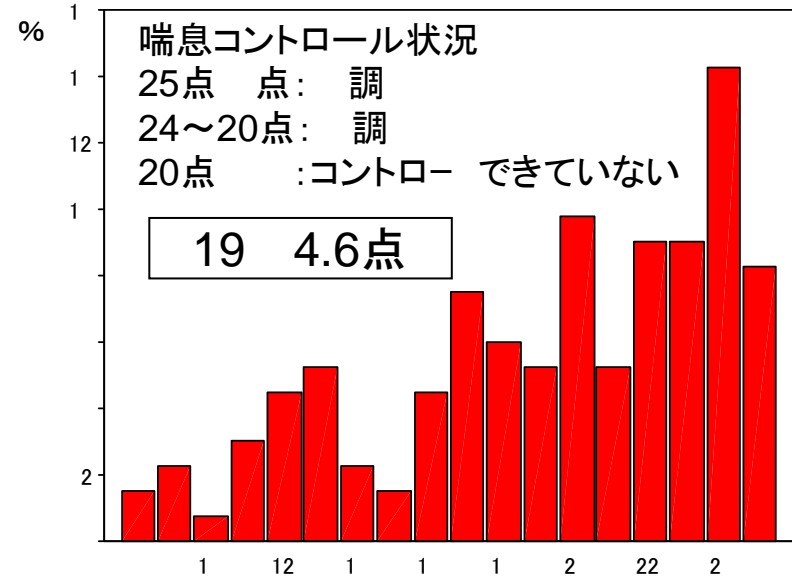
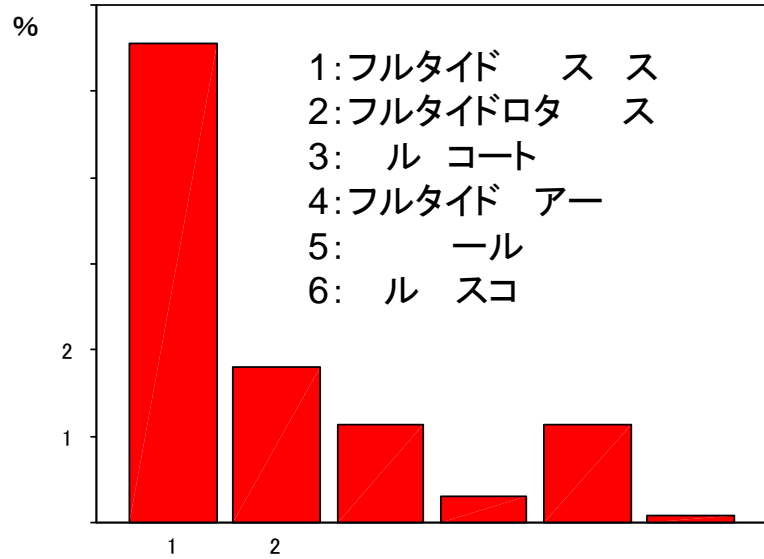
③1回目のACT、ICS手技到達率との相関性について

④1回目のACT点数とICS手技到達率との変化量(幅)について

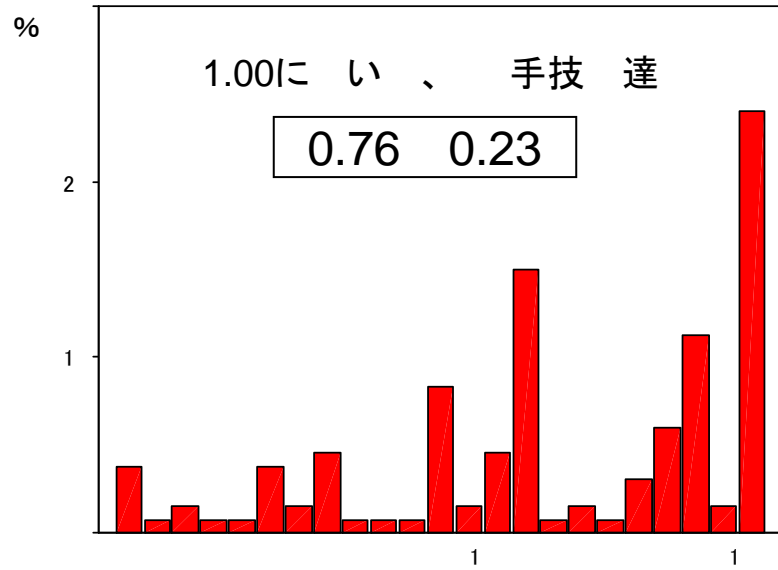
⑤各因子とICS手技到達率の変化量(幅)でのACT点数の変化量(幅)の有意確率について

1回目ACT、ICSの手技とコンプライアンス調査結果より(n=130)

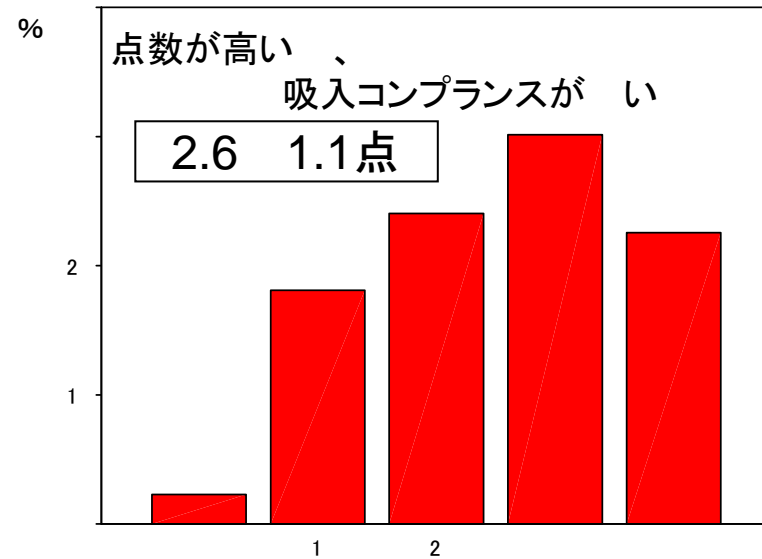




点数(点2点)



手技到達率(た項目数の割)



吸入コンプライアンス評価(点 点)

Morisky Scale調査(吸入コンプライアンス調査)

1:あなたは今 日に吸入を したことがありますか

はい(0点)・いいえ(1点)

2:あなたは吸入をする 間がいつもより 短かったり、 なくなったことがありますか

はい(0点)・いいえ(1点)

3:あなたは調子の い に 吸入を 止めることがありますか

はい(0点)・いいえ(1点)

4:吸入していて、気 が 短くなった に、あなたはその吸入を 止めますか

はい(0点)・いいえ(1点)

点数(点4点)が高い コンプライアンスが いとされる

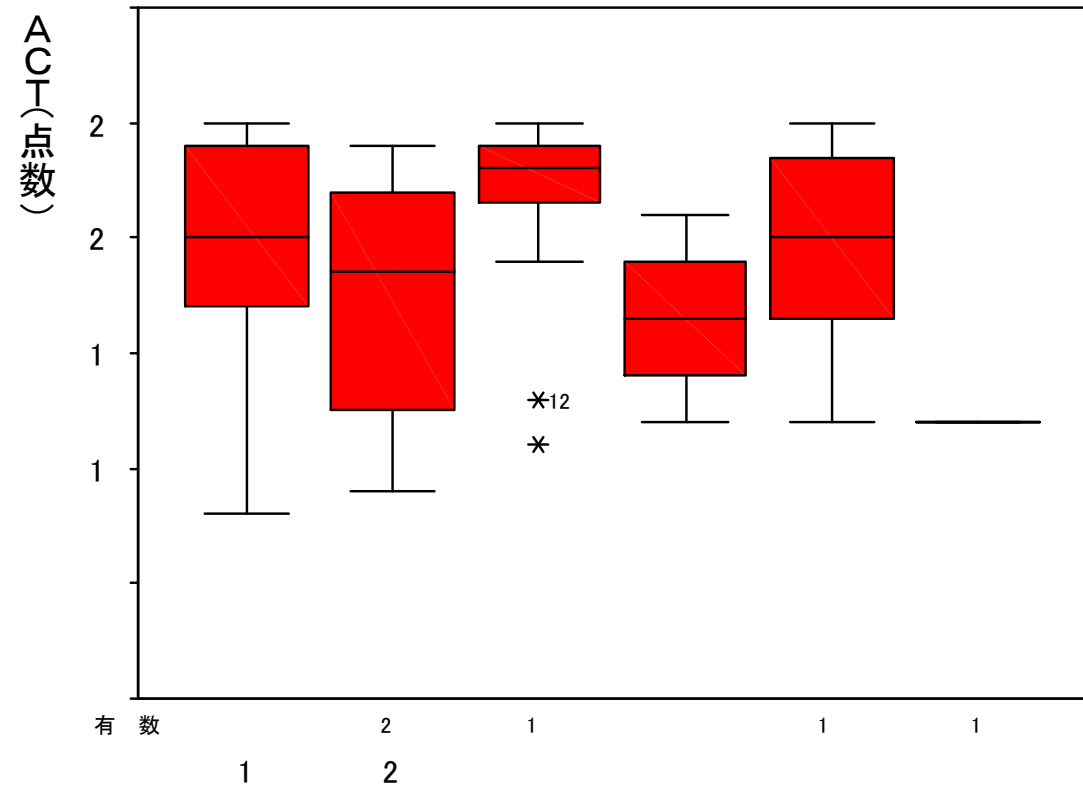
【結果① 1】

各因子でのACT、ICS手技到達率の有意確率について

因子	の 有意確率	手技到達率の 有意確率
性差		
年		
喘息		
(重)	<	

(Mann-Whitney U検)

間においては に有意な差があった。



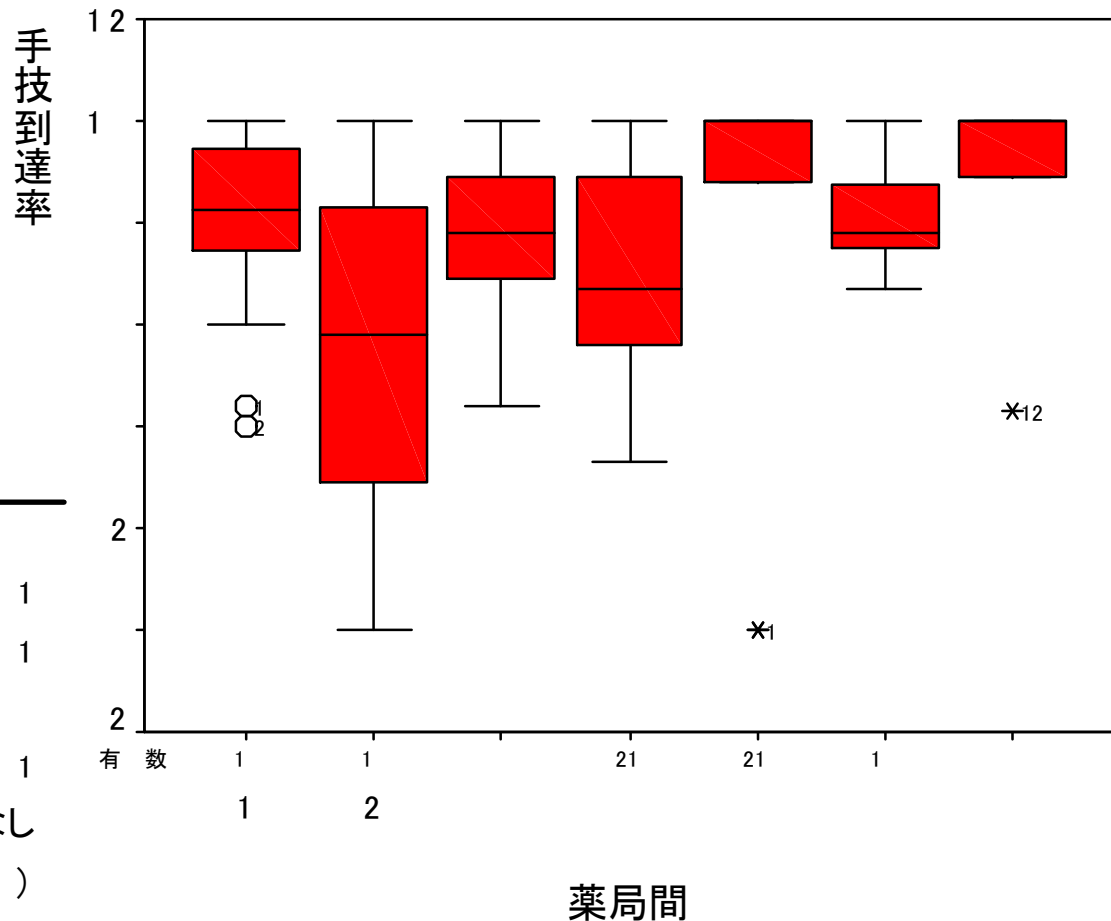
【結果① 2】

各因子でのACT、ICS手技到達率の有意確率について

因子	薬局間での有意確率
(重)	
性差	
年	
喘息	1
手技到達率	1
吸入コンプライアンス	

薬局間	手技到達率のMean とその有意確	SD
2-1	1	
2-	1	1
2-	2	1
2-	2	
2-	2	1

以 の薬局間においてns:有意差なし
(Mann-Whitney U検)



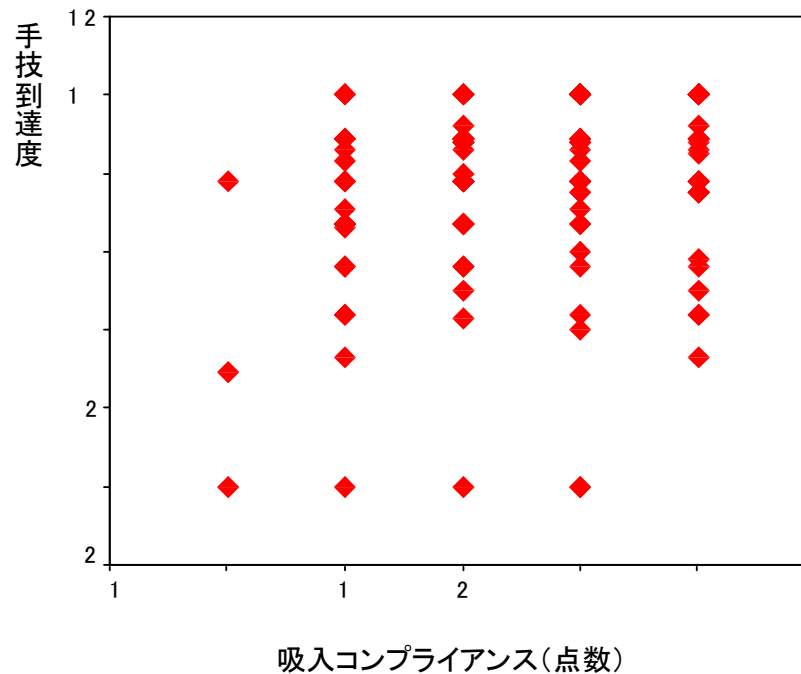
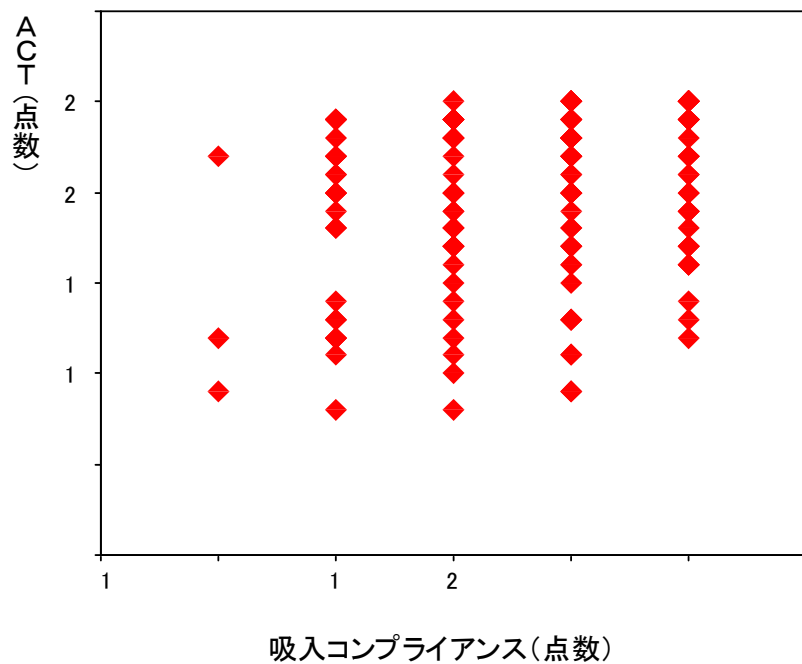
【結果②】

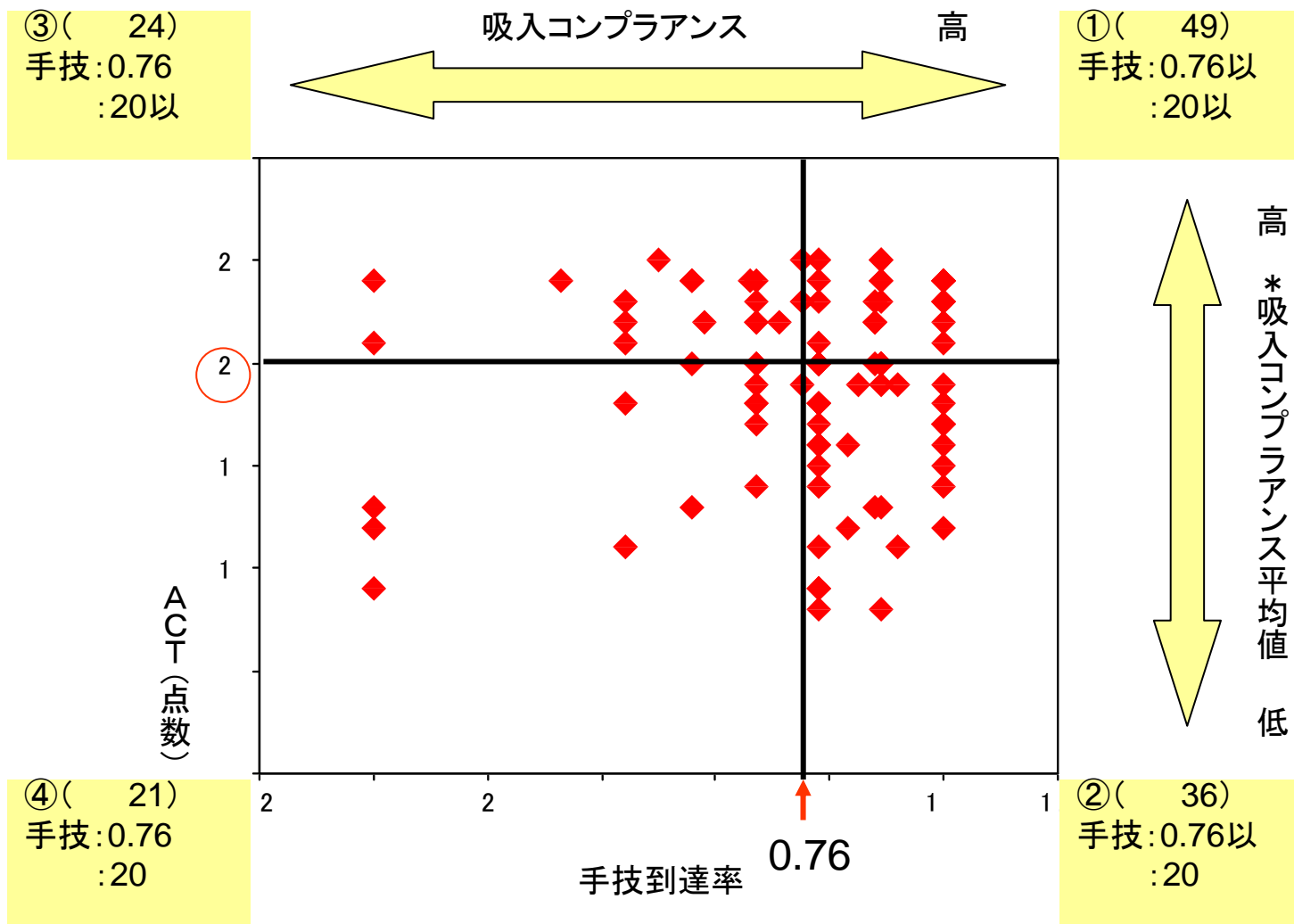
ACT、ICS手技到達率、吸入コンプライアンスでの相関性について

相関数

	吸入	フ	手技到達率
吸入	1	2	2
フ	2	1	12
の相関数	2	1	1
有意確率	2	21	21
両	1	1	1
手技到達率	2	1	1
の相関数	12	1	1
有意確率		21	
両		1	

相関数は で有意両 です。
相関数は1 で有意両 です。





ACTとICS手技到達率での有意な相関性はなく、4 間での性差、年 、 、喘息 、 、
吸 コンプラ アンスにおける有意な差はなし。

:ICS:フルタイム 剤(ス ス、ロ)使用の患者(95)のみにおける、 4 間において、
①—②、①—③ 間の吸 コンプラ アンスにのみ有意な差 ($p < 0.05$)あり。

【結果⑤】

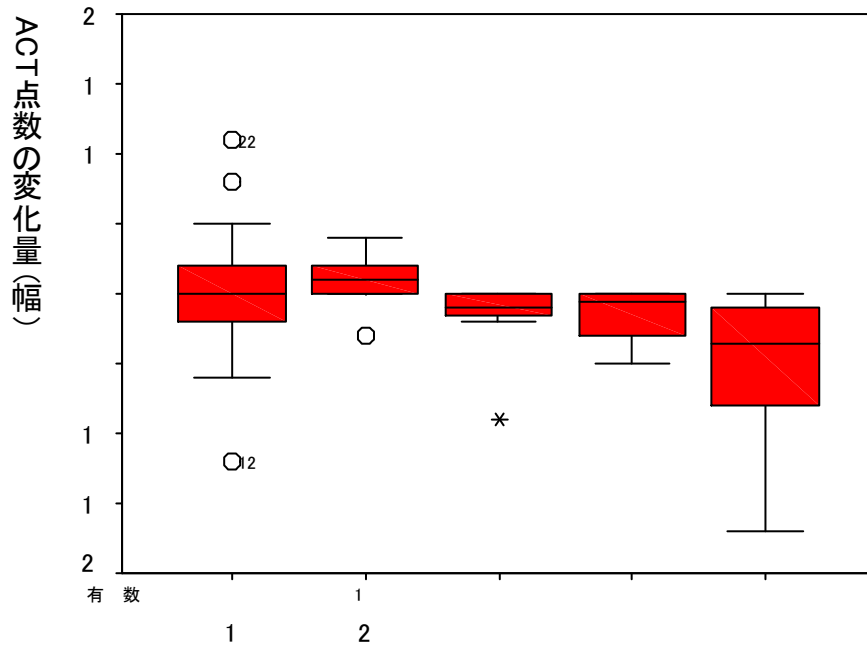
各因子とICS手技到達率の変化量(幅)での
ACT点数の変化量(幅)の有意確率について

因子	点数の変化量(幅)の有意確率
	1、2
性差	
年	
喘息	
手技到達率 の変化量(幅)	1回目の手技到達率 の間比較

(Mann-Whitney U検)

- 1:フルタイム ス ス vs 5: ール
- 2:フルタイムロタ ス vs 5: ール

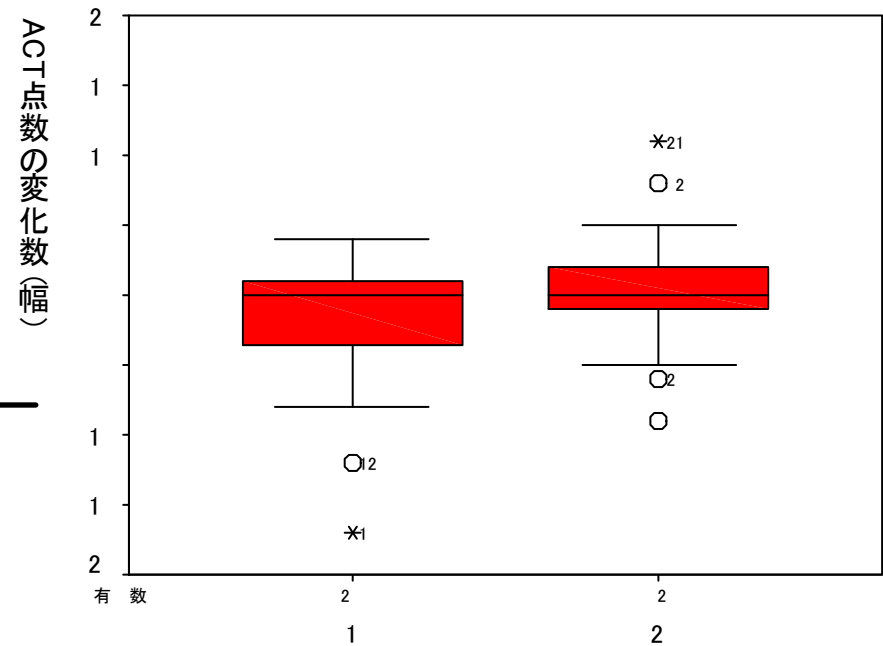
1回目の手技到達率 0.76 の 間比較
1回目の手技到達率0.76 での (0~0.75)
vs1回目の手技到達率0.76以 の (0.76~1.00)



間	点数の変化数(幅)	
	Mean	SDとその有意確
1-		
2-	1	
以上の間においてns:有意差なし		

1回目の手技到達率 の間	点数の変化量(幅)	
1回目の手技到達率 (~)の	-1.81	4.62
1回目の手技到達率 ~1)の	0.19	3.54

間の有意確 p<0.05



1回目手技到達率 間

【結果 とめ】

- ・ 結果①—1全体比較より、 の による のみ有意な差が された。
- ・ 結果①—2薬局間比較より、喘息 と手技到達率に有意な差が された。
- ・ 結果②より、吸入コンプライアンスと 、手技到達率において、有意な正の相関性が された。
- ・ 結果②より、 と手技到達率において、有意な相関性は されなかった。さらに、 20、手技到達率 0.76を に4 に けた 、各因子における 間での有意な差は されなかった。フルタイド 剤使用の患者にのみに して、 に4 に けた 、一 間で吸入コンプライアンスに有意な差が された。
- ・ 結果③より、1回目と2回目の 、手技到達率において有意な正の相関性が された。
- ・ 結果④より、1回目と2回目の 点数、手技到達率の変化量(幅)は、 0.59 4.06、0.10 0.19 った。
- ・ 結果⑤より、 の い(フルタイド ス ス、ロタ ス と ール)によ り、 た1回目の手技到達率 0.76 の 間比較で、 点数の変化量(幅)に有意な差が された。

【 】

- 薬局間での比較において、手技到達率に有意な差があったこと、
た手技の達の継続は 期の手技到達 に比 する があり、その 期の手技の到達 の いが 点数の変 、喘息コントロール状況の変 に す る 性があつたことより、薬局での の吸入 の重要性を し、今 での吸入 方法の しとファルマ・プラン での ーに けた 検討が 要と えられる。
- 1回目の手技到達率 0.76 の 間比較で、その の 点数の 変化量(幅)に有意な差が されたことより、手技に関して 回吸入 の患 者さんに対しては 8割 る、 できるよ な 、吸入継続使用の患者 さんに対しては 7割 ない方を見つけ してその方を重点 に継続 な手技の確 、 の 化が 要と えられる。
- フルタイム 剤使用の患者における と手技到達 の で、 20、手技到達 0.76を に4 に けた 、一 間で吸入コンプラア ンスに差があつたことより、今 患者さんの中で手技は 達しているも喘息コ ントロールの い方、喘息コントロールは でも手技に のある方に対 して、 で今以 により な治療意 を し高める対 の実 が 要であり、Morisky Scaleを使った吸入コンプライアンス調査を ことも有 な対 の一つと えられる。